

日本語の苦手な日本人

中村浩二（会社員）

×

成瀬 毅（NPO法人アップル・シード）

①モラハラ父たちとの子供時代

- 外面（そとづら）がとても良いが、家庭内ではよく怒っていた。
- 長男である兄が、薬物依存症になっていた。



②私の不良時代

- 学校での勉強についていけず、小学生の頃はイジメに遭った。
中学生の頃は、不良グループに囲まれて、集団リンチに遭った。
- 不良グループが、唯一の居場所になってしまった。



③会社でのイジメと外国人グループとの出会い

- 入社した初日から遅刻。次の日もまた次の日も、その次の日も遅刻。「遅刻常習犯」となった。
- 仕事は、丁寧に説明されていた。しかし、頭では分かっているが、体がついていかず、うまくできなかった。
- それらのせいで、イジメに遭ったが、主にブラジルやペルーなどの外国人グループが、優しくしてくれた。そしてブラジル人たちとの付き合いがはじまった。

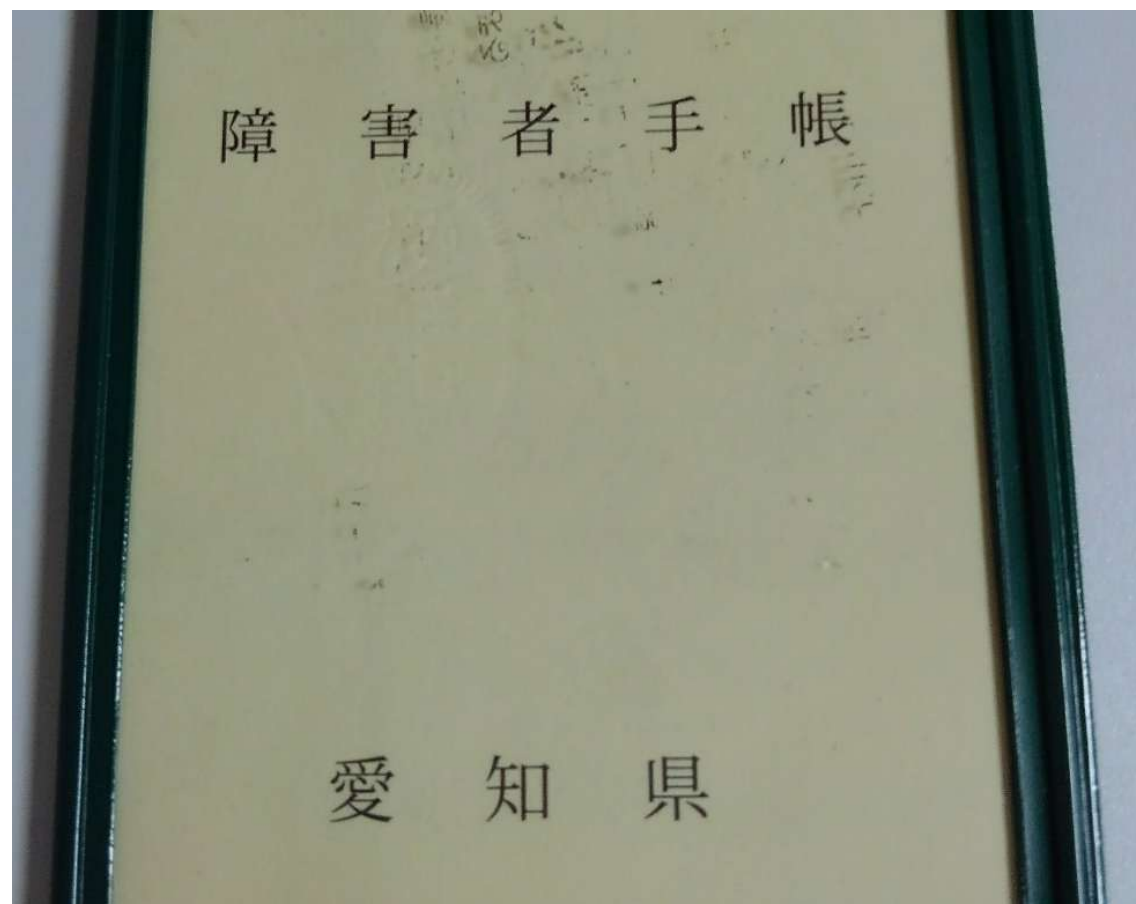


④40才で発達障害の診断を受け、障害者手帳を取得。

- 実は、20才の頃、豊田市内の精神科で受診したが、「別にフツーですよ」と言われ、終わった。
- しかし40才の時、再度、名古屋市内の心療内科クリニックを受診して、「発達障害」と「うつ病」と診断された。

写真は精神しょうが いの手帳

精神、身体、知的の
各々の「しょうがい」
に応じ、各都道府県が
手帳を発行できる。



⑤障害者雇用として会社にも自分にもプラスになった

- 障害者手帳（精神障害者保健福祉手帳）を取得したことで、会社への障害者法定雇用率にも貢献できるし、自分の特性への配慮にもためになった。
- 主に部長が配慮してくれて、調整してくれるようになった（その部長も、「自分も同じような特性があるかも」と言っている）。

エピソード①ー外国人で日本語ペラペラ、プライド高い？系の小学校教員

- 女性：あなた、わたしが外国人だからって、わざと分かりやすく日本語を話してるんですか？わたしは日本語分かります！そんなわざと分かりやすいように話さなくてもいい！わたしをばかにしないでくれる？
- 中村：はて？？？イヤ、フツーにしゃべってるけど・・・
- 女性：（キレて）普通じゃない！！そんなカタコト日本語話す日本人なんていないわ！！
- 中村：・・・💧💧💧